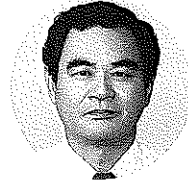


分化と総合



館長 糸数 兼治

博物館は総合博物館がいいか、個別専門館がいいかという議論がある。これは分化と総合というむつかしい問題をはらんでいる。歴史の発展法則からいえば分化が総合より高次の存在形態ということになるのであるが、ことはそう簡単に割り切れるものではないらしい。というのは分化が進めば進むほど現実からの乖離がそれだけ大きくなるからである。現実中存在するのは森であって、木を見て森が見えなくなるようでは困る。そうかといって森を見て、木を見ずでは森のことは何もわからない。木をもって森とすることはできないし、森をもって木とするわけにはいかないであろう。畢竟分化と総合は帰納と演繹であって、これはどっ

ちがいいという二者択一の問題ではないのである。

最近、総合博物館のよさが改めて見直されつつあるのは、分化が進みすぎて森を見失う恐れが出てきたためではないかと思われる。ところで、新館も総合博物館として構想されているが、だからといって個別専門館としての機能もおろそかにはできない。博物館は生活や時間的ゆとりが増大するにつれて、その社会的役割がますます重要になりつつある。流動する時代の文化的ニーズに 대응していくための多様且つ斬新な企画や展示をいかに創出していくか、このこともまた博物館の活動を活性化していく上で重要な課題ではないかと考えている。

特別展 『子どもの世界』

日時：平成6年7月19日（火）～8月31日（水）

場所：県立博物館第一展示室・企画展示室・第三展示室

この特別展では、沖縄の子どもにまつわる諸資料を一堂に集め、学校社会ではとらえきれない伝統的な子どもの世界を再現します。

考古資料にみる子ども、歴史資料や絵図・絵画にみえる子ども、祭りや人生儀礼など民俗行事にみる子ども、子どもの衣服、玩具、過去と現代の遊び、絵本や漫画にみる子どもの世相、写真・映像資料にみる子どもなど様々な視点から子どもの世界を展開します。

この特別展を通して、沖縄地域の伝統的な子どもたちの世界をたどり、現代の子どもたちならびに子どもたちをとりまく社会・環境をあらためて考える機会としたい。



なお、関連行事として、8月6日（土）2時30分に青柳まちこ氏（立教大学教授）による特別文化講座が予定されています。

沖縄戦終結50周年記念特別展

「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展覧」(仮称)

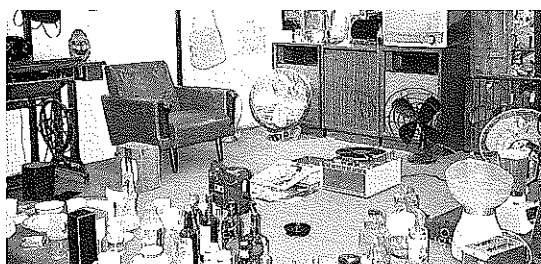
に向けての資料収集について

沖縄県立博物館では、沖縄戦終結50周年を記念して平成7年(1995)6月に特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」(仮称)を開催します。戦争の惨禍は文化財の破壊と散逸の実状をとおして伝えることがねらいです。廃墟の中から立ち上がって、生活の再建、郷土文化の復興、文化財の収集・保存・復元に取り組んできた県民の努力の足跡をたどることによって、平和創造の精神をアピールします。

このような特別展開催のため今年度より準備作業にとりかかっていますが、とくに沖縄戦や戦後の生活資料が少なく収集に努めているところです。もし、皆さんのところに、日の丸寄せ書き、Aサイン、カンカラサンシン、米国民政府発行パスポート、USカバン、洗濯板、米軍毛布やパラシュートを利用した服、ジュラルミン製食器、730標識類、水カン、ジュークボックス、復帰運動に関する資料(寄せ書き、横断幕ほか)など、なんでも結構ですので、ございましたら博物館まで御一報下さい。

展示は次の小テーマに分けて構成します。

- ①沖縄戦による文化財の破壊・散逸の状況
- ②廃墟の中から作り出された生活用品
- ③米軍支配下の県民生活
- ④還ってきた流出文化財
- ⑤在米沖縄文化財
- ⑥復元された文化財
- ⑦その他、沖縄戦に関する事象



連絡先：沖縄県立博物館(学芸課：萩尾・與那嶺まで) TEL (098) 884-2243

博物館資料レプリカ作製事業はじまる

本県は日本本土とは異なる歴史的背景をもち独自の文化を育み、数々の歴史的な文書資料や美術工芸品が残されていました。しかし、今大戦によりその多くが戦災にあい貴重な文化遺産が失われてしまいました。幸いにも戦災をまぬがれた資料については博物館において保存され、展示資料として活用されていますが、何よりも資料の絶対量が少ないのが現状です。しかも現物資料が唯一性をもつために、指定文化財や歴史的に古い資料で劣化の進んでいるものは、展示資料として不可欠なのに長期的な展示には耐用できないものも多々あります。したがって、このようなことから、博物館資料のレプリカ(複製)作製は、当博物館所蔵資料の保存、及び展示資料の運用に幅をもたせその充実化を図るために、とても大切なことです。

前年度は、そのために「明孝宗より中山王尚真への勅書」と「聞得大君雲龍黄金簪」のいずれも県指定文化財のレプリカ作製をおこないました。今後も年次的に作製をおこなう予定です。



教育普及活動のご案内（上半期）

☆文化講座

回数	名 称	講 師	実施期日	回数	名 称	講 師	実施期日
236	沖縄の芸能	宜保 榮治郎 (沖縄民俗学会会員)	4 / 16(土)	240	子どもの世界	青柳 まちこ (立教大学教授)	8 / 6(土)
237	薬草の話 (ウッチン)	吉川 敏男 (沖縄健康 管理センター所長)	5 / 21(土)			城間 麗進 (文化財修理技術者 協会副会長)	
238	ラオスの染織	柳 悦州 (県立芸術大学助教授)	6 / 18(土)	241	拓本教室	阿波根 直孝 運天 美和子 (文化財修理技術者 協会会員)	9 / 17(土)
239	トンボの話	佐藤 文保 (ZEROの 森の友の会会員)	7 / 23(土)				

毎月、第3土曜日の14:30～、博物館講堂にて行います。(但し、8月の特別文化講座は第1土曜日)

☆夏休み「歩く・見る・作る」教室

名 称	講 師	実施期日	対象・定員	受付期間
スケッチをしよう	田場 健章 (琉球大学附属中学校教諭)	8 / 7(日)	小4～6年生 親子15組	7 / 13(木)～7 / 31(日)
星の観察会	瀬名 波 任 (県立博物館指導主事)	8 / 27(日)	小・中学生 親子20組	8 / 9(火)～8 / 21(日)
遊具をつくる (虫たちの木くんだり)	外原 淳 (沖縄玩具伝承友の会)	8 / 28(日)	小・中学生 30名	8 / 9(火)～8 / 21(日)

夏休み期間中の日曜日の午前中に博物館講座にて行います。(但し、スケッチ会は龍潭周辺)

☆子ども体験学習

名 称	講 師	実施期日	対象・定員	受付期間
昆虫標本を つくりよう	佐藤 文保 (ZEROの 森の友の会会員)	5 / 14(土) 5 / 15(日) 6 / 11(土)	小4～高校生 40名	4 / 15(金)～4 / 30(土)
漆喰でシーサーを つくりよう	金城 登 (首里高校教諭)	7 / 9(日) 8 / 13(土) 8 / 14(日)	小4～高校生 40名	6 / 15(水)～6 / 30(木)
オリジナルの印を つくりよう	大城 民子ほか (雲石同好会)	9 / 10(土) 10 / 8(土) 11 / 12(日)	小4～高校生 40名	8 / 15(月)～8 / 30(火)

毎月、第2土曜日・日曜日の10:00～、博物館講堂で行います。(教室によっては、期日・場所の変更あり)

新博物館行事

『博物館シアター』始まる

博物館活動の一貫として、今年度より実施する「博物館シアター」では、映像や演奏等も博物館活動の一つであるという考え方で映写会を中心に講演会・演奏会等を開催して、県民の文化的向上に寄与したいと考え、ジャンルにとらわれず幅広く総合的な内容のものを実施します。

今年度は「映像でみる沖縄」「夏休み親子シアター」「名画劇場」「ミュージアムコンサート」「チャップリンの世界」の五つのシリーズを設定し、講演・映写会や演奏会をおこないます。

☆毎月1回、14:00より、博物館講堂で行います。

1	映画「老人と海」	4 / 24(日)
2	映画「紅型・宮古上布・壺屋の陶器」	5 / 8(日)
3	映画「黒島民俗誌」 解説「製作にまつわる話」 講師：篠原 徹 (国立歴史民俗博物館助教授)	6 / 5(日)
4	映画・アニメシリーズ 「ニルスの不思議な旅」	7 / 31(日)
5	映画・アニメシリーズ 「七夕物語」	8 / 7(日)
6	講演「映画を楽しむ」 講師：山根 将人 (医学博士) 映画「大いなる幻影」	9 / 25(日)

移動博物館のおしらせ！

11月19日（土）・20日（日）

沖縄県立博物館では、博物館の利用に不便を感じる地域の方々に博物館活動の一端にふれていただくため、昭和54年度から「移動博物館」を実施してまいりました。

平成5年度は第18回目にあたり、座間味村で11月19日（土）・20日（日）の2日間、開催いたします。

展示内容は沖縄の歴史、考古、自然、美術工芸、民俗の5分野にまたがり、できるだけ多くの方々が御覧になっていただけるように企画いたしております。展示会場内にビデオコーナーをもうけ、沖縄の伝統文化や自然に関するビデオを上映いたします。また、座間味の自然、文化に関する文化講座と、自然観察会なども予定しております。

博物館ニュース

① 三線『盛鳴開鐘』

県指定有形文化財となる

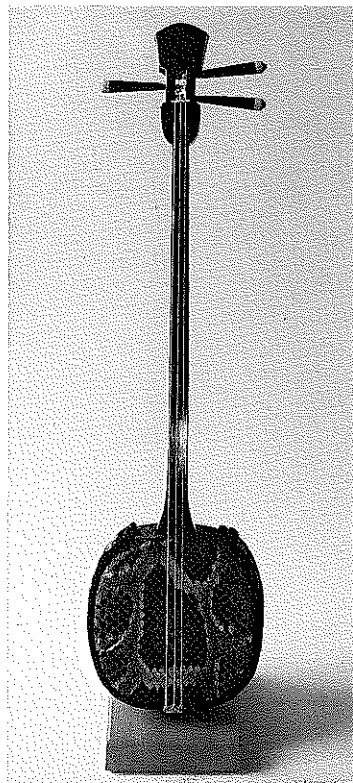
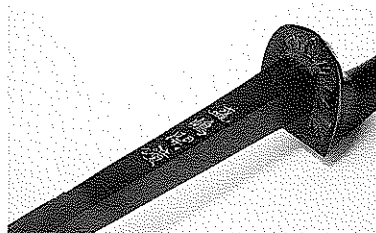
当博物館の所蔵する三線『盛鳴開鐘』一丁附胴を含めた三線9丁が文化財保護条例第4条第1項の規定により、平成6年3月15日付け沖縄県広報第2250号で沖縄県指定有形文化財の指定を受けました。

三線『盛鳴開鐘』は、1982年11月1日に尚裕氏より寄贈されたもので、現存する数少ない開鐘のひとつである。

開鐘とは、王府時代に真壁里主によって製作された真壁型の名器につけられたもので、夜明けにつく寺院の鐘のように美しく、遠くまで響きわたることにちなんでつけられた三線のことで、王や貴族が所蔵した。

戦前、5開鐘とそれに準ずる10開鐘があったとされているが、沖縄戦でその大半が失われてしまい、現存する翁長開鐘（野原博所有）、志多伯開鐘（金城紀光所有・県立博物館寄託）、湧川開鐘（高宮城弘陽所有）の3丁が昭和30年に県指定を受けている。

盛鳴開鐘は5開鐘の中でも名器中の名器といわれた三線である。材質はリュウキュウコクタンの上質材で、棹は細身で漆は赤味がかかり、心の裏側には「盛鳴開鐘」と漆で朱書きされている。



② 子育て奮戦記 (イソヒヨドリ)

博物館正面玄関脇に今年もイソヒヨドリが巣をかけた。来館者の出入りが多い場所にもかかわらず、2年続けての営巣である。

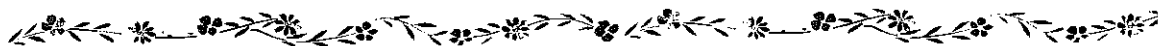
この鳥はイソヒヨドリ(方言名イシビユサー)と名前がつけられてはいるが、ヒヨドリ科の鳥ではなく、ツグミ科の鳥である。もともと海岸近くの崖地や草原などにすむ鳥であるが、近年市街地にも多く見られるようになり、高い建物の屋上に



とまっている姿がしばしば見かけられる。

博物館にもこうしたけなげな鳥が住みついで、今年4月中旬には巣造りがはじまった。その後5月1日には卵がふ化し、それから日々餌運びに追われる親鳥の姿が観察された。その育雛活動を定点観察してみると、雛に運ぶ餌のメニューの豊富さには驚かされる。主体をなしているのがヤチョウ類の幼虫であるが、それ以外にサツマゴキブリ、ヘリグロヒメトカゲ、ホオグロヤモリ、ムカデ、バッタ類、カマキリ類、ガジュマルの果実、マイマイ類の殻、パンくずなど実に様々なものが餌として運ばれている。そして、5月12日には4羽のヒナが無事に巣立つことができた。

「都市鳥」として市街地に適応し、身近な鳥のひとつになりつつあるこの鳥は、意外にその生態についてはまだまだ未知な部分が多い。そうした意味でこれからも見続けていきたい鳥のひとつである。



『平成5年度 新収蔵品展』

平成6年5月10日(火)～5月29日(日)

前年度に寄贈され、収集し、購入した資料を一同に集めた「平成5年度新収蔵品展」が行われ、貴重な資料が広く一般に公開されました。

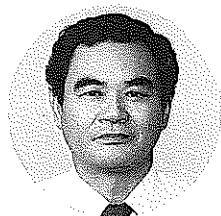
今回の新収蔵品展では明治時代に織られた宮古上布、王府時代のものと思われる礼装用の胴衣、明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書(レプリカ)、

銀製の三線、比嘉華山作の琉球風俗画帖などの貴重な染織資料、歴史資料、美術資料等が展示され注目を集めました。

また、旧中城御殿発掘調査による出土品も初公開され、関係者の目をひきました。その中でも尚家の紋入り大植木鉢は大変な人気でした。



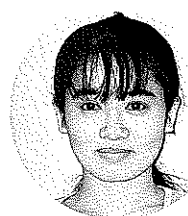
新職員の紹介



館長 糸数 兼治



副主査 玉元 妙子



主事 當山 裕貴子

※ 尚、前館長の宜保榮治郎氏、上江洲キク氏は退職し、宜保光子氏は、教育庁福利課へ転出しました。

私と博物館

新垣 隆子 (友の会会員)

私と博物館の出会い、休日のゴロゴロ、ブラブラを家族にとがめられた時のマイカーで逃げのびる場所ということにありました。しかし、それが今日では土曜日の午後のひとときを専門家の講師によるすばらしい講座を聴講することに始まり、常設展、特別展の観賞など、一人きままな時間のすごせる素晴らしい場所となりました。途中、いくたびかの長欠もありましたが、20余年が経過しました。その間には、友の会に入会し、久米島や久高島などの離島めぐりに参加させていただき見聞を広めることができました。また、グスクめぐりでは、学習内容もさることながら、参加される

方々の人柄、生き方に感動すること多々にあり、めぐり合いに感謝しております。

様々な博物館活動に参加することによって、我が郷土の歴史を、少しずつわかりかけてくるようになったようです。それと共に、最近になって博物館のもつ役割によって私自身が育てられてきたなとつくづく痛感しております。

「無知」の世界を知り、又来たいなとワクワクして帰っていく場所、博物館。もう逃げ場所だけではなくなくなってしまった「トコロ」なのです。博物館とは何だろう。今の私には、まだことばがみつきりませんが、これから探したいとおもいます。

<p>博物館案内</p>	<p>【交通案内】</p> <p>一那覇空港発一 ⑦番(首里城公園行き)「首里高校前」バス停下車、徒歩5分</p> <p>一市内バス一 ①番(首里識名線) ②番(末吉線) ③番(牧志線) ④番(石嶺開南線) 上記の路線は「首里城公園入口」または「当歳」バス停下車、徒歩2分。</p> <p>一市外バス一 ⑥番(西原線)の「首里城公園入口」または「当歳」バス停下車、徒歩2分。 ⑤番(石川線)、⑧番(琉大線)の「桃原」バス停下車、徒歩5分。</p>	<p>沖縄県立博物館だより No.36</p> <p>発行年月日：平成6年8月1日 編集・発行：沖縄県立博物館 住 所：〒903 那覇市首里大町1-1 ☎098-884-2243 FAX 098-886-4353</p>
--------------	---	--